

新「能代市」の誕生を祝って！

〜一体感づくりのために〜

二ツ井町は郷土芸能が盛んで、保存会が11団体あり、二ツ井町郷土芸能保存連合会を結成して、郷土芸能の振興と継承に努めています。毎年、町民文化祭で合同発表会を開催し、好評です。今年は、11月3日にきみまち阪で開催予定とのことです。

二ツ井町郷土芸能保存連合会会長の佐藤吉雄さんにお話を伺いました。



四つの郷土芸能が県の指定文化財となつています。郷土芸能は昔から盛んで、代々引き継がれてきました。今も、小学生から高齢者まで、各世代がたくさん参加しています。このように世代を超えて参加・交流できるのが、とても良いことだと思つています。小学校では郷土芸能の伝承が、学校行事として取り入れられています。二ツ井地域の郷土芸能は、ほとんどがお盆の時にそれぞれの地域で演じられます。合同発表会は、きみまち阪の美しい紅葉を背景に、多くの参加団体によってそれぞれの特色を生かしながら演ぜられ、全国的にも珍しいといわれています。

特に、遠方の来訪者から高い評価を受けます。能代の方々もぜひご覧ください。

いつの日か、二ツ井、能代の合同で発表会ができれば素晴らしいことだと思つています。



第4回

盛んです!! 郷土芸能



11月3日は、きみまち阪
遊びに来てください!
(雨天時は、二ツ井町伝承ホールです)



のーろ道遙

歴史と民俗のあいだ

79

教師記念碑(一) 「保坂久吉先生」

浅内神社の参道入口の左手に「保坂久吉先生謝恩碑」が建つています。基壇の上に台座を置き、その上に高さ一七〇センチの碑があります。『佐竹義和頌徳集』を著した学者・教育家である泰城小林謙吉が碑文を書いています。格調の高い文章です。浅内小学校『創立百周年記念誌』に載っています。

当時浅内には尋常小学校しかなく、それ以上の高等科教育の必要を感じた保坂先生は、明治二十八年、自宅裏手に塾を建設し、漢学を主体に多くの子弟を教育しました。三十六年に尋常小学校に高等科が設置されて、保坂先生はその教員になりました。休日にはなお塾を開いていたそうです。その当時教を受けた子弟はその恩を感じて、大正九年にこの謝恩碑を建設しました。碑の四隅に石柱を建て、塾に学んだ子弟百二十四名の名が刻まれています。碑文には、その徳を慕い、勉強だけでなく人格的な教えを受けた人は百五十名を超えたとあります。

保坂先生の教育熱や、生徒の向学心は盛んなものがありました。明治の学校教育は次第に国家教育に向かいますが、その陰には私塾を認めないという厳しさもありました。この碑は地域の教育の大切さを語っています。

(古内)

